

重誓寺報

第20号 平成23年12月発行

浄土真宗本願寺派 重誓寺 大阪市旭区中宮2-4-19 電話・FAX 06(6951)0090
(西本願寺) (じゅうせい) <http://juseiji.net> info@juseiji.net

以前にもこの紙面にてバナナの栽培をご紹介いたしました。当初、冬には枯れてしまうかと思っていました。寒くなると鉢を室内に入れ、ついに三年が過ぎてしまいました。そこで今春、思い切って地植えすることにしました。すると大きかった葉が、さらに倍ほどになりました。そして十月になり、真ん中から今までにはなかったものが出てきました。いよいよ待望のバナナの花芽が出てきたのです。次第に下を向き、中から可愛いバナナの実を覗かせました。成長の早い植物ですので、すぐに熟すのかと思つたのですが、調べてみると沖縄でも開花から収穫まで一六〇日程度かかるそうです。これから冬を迎え、おそらく屋外では持ちこたえることは出来ないでしょう。とりあえず、ビニールで囲いを作ってあげましたが、はたして収穫まで出来るかどうかは何とも言えません。しかし、今まで鉢の限られた中で閉じ込められていたものが、解き放たれた途端、一気に見違えるほどの成長を見せたのはビックリさせられました。まさに大地に根を張ってこそ、大輪を咲かせるということでしょうか。



親鸞聖人のご生涯

① 誕生・出家得度

今回より親鸞聖人のご生涯を順にご紹介いたします。

親鸞聖人は平安の末期、一一七三年五月二十一日京都、日野の里（伏見区）で誕生されました。

父は藤原一門の下級貴族である日野有範^{ありのり}。母は源氏の流れをくむ吉光女^{きつこうによ}と
言われています。

この時代は政治の実権が源氏から平家へと代わる混乱の時代であり、また京都の大火や天災、大飢

饉などまさに末法の時代でありました。このような混乱と荒廢の時代に幼少期を過ごされたこととなります。

次第に日野家が没落し、平家全盛の時代になると、源氏の流れをくむ者としては出世の道が閉ざされると考え、聖人が九歳の時、仏道に入ることとなります。



日野誕生院 産湯の井戸

政治の世界で苦勞するより、比叡山での学問の道を選ばれたようであります。天台座主^{ざいす}を務めた青蓮院^{しょうれんいん}（東山）の慈鎮^{じちん}和尚のもとで出家得度されることとなりました。

伯父^{のりつな}にの範綱^{のりつな}に伴われて青蓮院を訪れた時、慈鎮和尚は「日も暮れて来ましたので、明日得度式を行いましよう」と告げます。すると聖人は、

「明日ありと 思う心のあだ桜

夜半^{よわ}に嵐の吹かぬものかは」

と諸行無常を例えた歌を詠まれます。

これに感銘を受けた慈鎮和尚はその日のうちに得度式を行つたとされています。

範宴^{はんねん}という名を与

えられた聖人は、その翌年より比叡山に入山し、修行の道に入ることとなります。



青蓮院での出家得度



親鸞聖人七五〇回大遠忌法要 団体参拝のご報告

本願寺において四月から始まりました親鸞聖人七五〇回大遠忌法要団体参拝が十一月で終了し、あとは一月九日からの御正当法要を残すのみとなりました。

これまでに百万人以上の方が参拝されたそうです。

九月十六日には榎並組（旭、城東、都島の浄土真宗本願寺派寺院）からも三四台のバスを連れ、千人以上の方にこのご縁にお会い頂くことが出来ました。

まだまだ暑い御影堂でしたが、ほぼ中央の座席で、ご参加された皆様からは「よい記念になりました」とお喜びの声をいただきました。



いつもお寺にお参りされる方はもちろんですが、今までなかなかご縁に出会っていただけなかった方がご参加下さったことは、今回の法要のコン

セプトである「新たな始まり」につながるのではと思います。

今後とも機会あるごとに、親鸞聖人がお伝え下さった、

「仏法ひろまれ、世の中安穩なれ」

この私が仏になる阿弥陀様の教えにお出会いたいと思います。



重誓寺よりご参加の皆さん

法座のご案内

重誓寺では毎月、二十日

(三、五、九、十一)月は二十日、二十一日)

法座が勤まります。

勤行約三十分、法話約一時間

浄土真宗にとつて一番大切なことが、
仏法を聞くこと、いわゆる聴聞であります。
ご家族お誘い合わせの上、お参り下さい。

常例法座

十二月二十日(火)

講師 中西 昌弘 師

一月二十日(金)

講師 足利 孝之 師

二月二十日(月)

講師 義本 弘導 師

いずれも昼二時、夜七時より

是非お参り下さい。

修正会しゅうしんかい (元旦会)

一月一日午前八時より

お勤め、法話、流盃 約一時間

大晦日は午後十一時より

一日午前一時まで開門致します。



重誓寺の由緒書きでは一二三四年が
開基とされており、今年で七七七年
を迎えました。また今年長男が七月七日に
七歳になりました。
今年親鸞聖人の七五〇回忌法要でもあり
ます。

数字には特に意味
はありませんが、
このような偶然に
巡り合うと、何か
不思議に感じます。



そこでこの機会にと私自身が同じ頃に使っ
た法衣を長男に着せ、報恩講法要に内陣出
勤させていただきました。

最初は嫌がっていました本人も、納得して
しまふと結構楽しんでいましたようです。

先のことは分かりませんが、皆様や後の方
たちと共に仏法を長く、広く伝えていつて
くれることを切望しております。